

JOMF 派遣医師便り (2015. 12)

◆マニラ◆

自動車パンク事故、大きな“事件”につながらなくてよかった

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

今日は大きなパンク事故に遭遇した話をします。

2015年11月某日深夜、日本から夜行便でマニラに着きました。いつも到着の1時間前には空港で待機してしてくれる運転手さんが来ていません。到着ロビーからも電話をしましたが返事がありません。5分くらい経ったところ彼から電話が入りました。「遅れて申し訳ありません、空港の近くまで来ているのですがパンクをしてしまいました。大きなパンクです、スペアタイヤに交換してから空港へ向かいます」と。かなり興奮した口調で話しています。単なるパンクではないのでは？と危惧しました。

約30分後に彼は空港に到着しました。「タイヤに釘が刺さったの？」と尋ねると、「いや釘ではなく大きな tool です」。Tool とは何だ？ タイヤに tool が刺さったという状況が想像つきませんでした。

興奮気味の彼から聞いた話はこうです。マニラ国際空港近くの道路を走行中に突然に物が“ガツン”と当たり“ガクンガクン”と自動車が大きく揺さぶられて止まった。かなり大きな振動だった。何事が起ったのかと車から降りてみると左後側のタイヤがパンクしていた。すぐに周囲から数人の男が集まってきて「このパンクはひどすぎる、すぐには修理できないから新しいタイヤを買わないとダメだ。一緒に車の移動を手伝うので新しいタイヤと交換しなさい」と言ってきたというのです。彼は即座に「スペアタイヤがあるので自分で交換するから大丈夫だ」とその場を振り切って離れたそうです。

自宅に戻ってそのパンクしたタイヤを確認したところ、約20cmのスパナが硬いタイヤのゴムを15cm位突き刺しタイヤの中に嵌まりこんでいました。スパナの周囲の硬いタイヤのゴムはボロボロに変形していました。手で抜こうと試みましたがスパナはビシッと嵌まってびくともしませんでした。

次の日、近くの自動車修理工場へ二人で行き修理をお願いしました。修理工場の主人は「今週だけでも同様の事故が5件あった。毎年クリスマス時期になるとこの手の“犯罪”が多くなる。道路にアイスピックや金属片などを埋めてパンクや事故を誘う手口だ。タイヤはパンク修理できる範囲を超えている。夜間にホールドアップに遭遇しなかったのは本当に運が良かった」と話してくれました。

運転手さんは非常に大きなショックを受けていました。「パンクさせて申し訳ない。こんな大きなパンクに遭遇したことがない。ホールドアップに遭ったかもしれないと思うとすごく不安になる」と何度も話していました。

彼の身が安全であったことは本当に幸いでした。

皆様も交通事故や犯罪には十分ご注意ください。お体大切にしてください。